

つくほ治療院新聞

通巻14号

治療とは…一鍼入魂!!

年が明けて間もない一月九日のある」というものです。日のニュースに「はり治療後に女性急死」という記事がありました。我々鍼灸業界にとってはマイナスイメージなので、ご存知ない方にはお知らせしない方がいいのかもしれませんが、正しく理解していただきたいので、あえて書きたいと思います。これは「昨年十二月、鍼灸整骨院で、はり治療を受けた直後に容態が急変し、翌日に死亡しました。死因は、はりが体内に深く入り、肺周辺が傷つけられたことで呼吸不全になり低酸素脳症に繋がった可能性

がある」というものですが、治療者は鍼灸師の資格を持っていない柔道整復師でした。鍼灸院は、院長一人で営んでいて、接骨院では、無資格者が、接骨院では、無資格者や学生を助手として置いてあるケースもあります。臨床経験を積むためには必要なのことなので致し方ありませんが、つい忙しいからと治療を任せっきりにして、鍼灸師の資格があるからと「ついでバリ」みたいに、患部だけを診て、ただ鍼を刺しているケースもあるようです。このせわしな

い時代は食事やフアッションだけでなく、マッサージや鍼灸までも、コンビニ的にしてしまいました。鍼灸は慰安ではなく医療ですから、安易な気持ちで行えば暴力です。それを理解した上で治療にあたり、一本の鍼を打つていかなければなりません。物理療法や薬と違って術者によって結果が変わるものなので、私は責任持って施せるよう一人で治療をしています。そのため色々ご不便をおかけしているかもしれませんが、魂込めて治療していきますので、ご理解のほど宜しくお願いします。



『困難は成長のチャンス』

私たちが仕事をするうえにおいて、予定外の突発的な業務が入ることがあります。そんなときは、心も体も重くなるものです。しかし、そういう時こそ「どんな忙しくても逃げずに真正面から取り組もう」「いつも力まずに平常心で臨もう」と考え方を変えてみましょう。そうすれば、緊張してこわばっていた気持ちも穏やかになり、今までやっかいだと思っていた急な仕事も、案外、気分よく対応できるようになるものです。

私たち凡人は怠け心がありますから、ついつい“易き”につこうとします。しかし、それでは、いつまでたっても自分を成長させることは難しいのです。課題や困難は、実は、自分が成長するための絶好のチャンスだといえます。

「一日一話」より

承山

(しょうざん)

文字通り、こんもりと盛り上がる「山」状の筋肉を「承」るツボという意味です。

足のふくらはぎにあります。



アキレス腱をさすり上げていくと、指がこむらねの山に突き当たります。止まるあたり。

こむら返りをはじめ、足に出るいろいろな症状によく効くとされています。例えば、足が腫れる・痛む・痺れる・引きつる・麻痺して立てない時・膝が痛い時などにいいと言われています。

その他にも、坐骨神経痛・腰痛・痔・下肢の倦怠にも効果があるとされています。

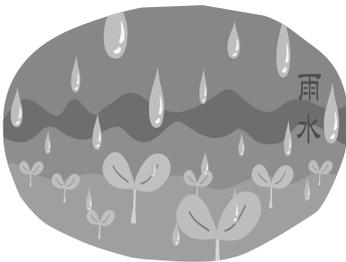
承山はちよつと押したただけでも効果が実感できるので、足がだるい時や立ちっぱなしでむくんだ時などに活用出来ます。

雨水

(うすい)

二十四節季

旧暦正月寅の月の中気で、新暦二月十八日ごろになり草木が芽生しはじめます。



2月の定休日

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

「めまい」

めまいの感じ方は人それぞれですが、大きく分けると「回転性」と「浮動性」に分けられます。「回転性めまい」は、グルグルと回っているような感覚があり、「浮動性めまい」は、フワフワと足元が浮き雲の上を歩いているような感じがすると訴えます。これらの原因の七割は耳にあると言われていて、耳の働きは、聞くことだけでなく、三半規管によるバランスを取る役割があるからです。その耳の病気のめまいには、「メニエール病」「良性発作性めまい症」「前庭神経炎」があります。「メニエール病」は、耳の中のリンパ液が増えることによって発症します。リンパ液が増える事により、水ぶくれの状態となり神経に障害をきた

院長の独り言

たします。めまいを起こすと共に聞こえ方に関わる症状が現れるのが特徴です。またリンパ液が増えたり減ったりする事が原因ですので、発作的に起きます。「良性発作性めまい症」は、耳の中の異物のいたずらで起きます。異物が勝手に内耳の中を動くために、体は傾いてもないのに傾いたとインプットされてしまい、バランスを取るために右やら左やらと動かされめまいとして感じます。ですから、この疾患は、頭を動かしたりした時に合わせてめまいを感じます。「前庭神経炎」は、風邪のウイルスが原因と考えられ、風邪の後に多く発症します。前庭神経は、平行感覚を司る神経なので、聴力の症状が出ないのが、特徴です。



このように、めまいは平行感覚を司っている耳の病気がから起こることが多いようです。しかし、リンパ液が増える原因も内耳に異物がたまる原因も分かっていないのが現状です。始めからリンパ液は存在して、増える分減って入れ替わりが起きています。同様に異物も当然のように存在しますが、自然と人間の体が排除してくれれます。このように人間の体は、自分でバランスよく統合的に働いているものなのです。東洋医学の概念では、体全体のバランスを整えることで、自然とリンパ液の代謝がスムーズになり、異物は自然と排除されていきます。結果的にめまいが改善されるわけです。七割は耳が原因と言いましたが、残りの三割の中に、脳の病気が原因のものもあります。めまいと同時にや前後に、手足の痺れ・頭痛・意識障害・嘔吐などが現れた場合は、早急に病院に行かれることをお勧めします。

《連載》東洋医学講座

脾臓の生理

なんでも五つに分ける五行論で、五臓を方角に配当すると、東西南北と四つ…一つ足りません。脾はどれにも属さないで、中央になります(この辺が東洋医学の面白い所)。これは、身体の中で、脾が中央に位置し、ここで気や血を作って、各臓腑に送っているところからきています。

今度は季節で分けていきますと、春夏秋冬…また一つ足りません。中央を季節で言う「土用」になります。「土用の丑の日にうなぎを食べる」で、ご存知かと思いますが、土用は各季節にあります。立春の前の十八日間を冬の土用、立秋の前の十八日間を夏の土用と呼びます。つまり、土用とは土(脾)を用いる時で、脾がもっともよく働く時なのです。

例えば、先月号でお話したように、心は夏に盛んになりますから、夏の土用は、これから秋に向かう時に、脾が働いて「夏の間、働いてくれてご苦労さん」といった具合に、心に気血を多く分配してあげるのです。その為に、脾が元気に働けるよう、栄養のあるものを食べるのです。



ちなみに二月三日の節分ですが、節分も各季節に存在し、立春・立夏・立秋・立冬の前日を指します。つまり土用が終わる日です。この中でも、冬から春になる一年の境として、立春の前日である二月の節分を重んじています。

医食同源

「いんげん」

呼吸器の粘膜の潤いを増して熱を冷ますので、気管支炎などの炎症を鎮めます。また、胃腸の働きをよくして利尿・便通作用を高めるため、便秘やむくみの解消によいとされます。ビタミンCが豊富で、シミ・そばかすを防ぎ、美肌を作りません。風邪・高血圧などの予防にも効き目があるとされています。さらに、血中コレステロール値を低下させる働きがあり、動脈硬化の予防にも効果があるとされています。

執筆余話

♪オーソレミオ〜♪は、イタリアで有名なカンツォーネですが、昨秋より、ほとんどの井の二階建てバス「オーソレミオ号」が始まったので乗って来ました。冬なので、とても寒かったですが、春や秋のいい季節に五感を利用して、一味違った東京を楽しむのは、いかがでしょうか。

